

**A 事業報告書****第8回 ESD アシストプロジェクト**

助成金利用報告書（申請年度：2016年度、実施年度：2017年度）

学校名	特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園
助成プロジェクト名	循環型社会理解の基礎となる体験型「暮らしと仕事」学習
主な教科領域等	教科領域（国語、算数、社会、理科、手仕事）
キーワード いずれかに○をして下さい (複数可)	環境学習、国際理解、平和・人権、世界遺産・地域遺産学習、防災・減災教育、その他（ライフスタイル）
助成活動に参加した生徒数	3学年 19人（複数可）
その他の参加者数	地域住民・保護者（37人）その他（環境NPOほか5名）
助成活動期間	2017年4月12日～2018年3月16日
<p>■助成活動の目的・ねらい</p> <p>人間と自然の関係性を、自然からの恩恵と厳しさの両面から学び、自然への働きかけの中で人々の暮らしの営みが発展してきたことを理解することを目的としました。さらに、地域の里山の環境を活用して、循環型の生活への視点を培いました。同時に、ここで取り上げた課題が、成長する子どもたちの心身を発達段階にふさわしくサポートできたと考えます。</p> <p>■助成活動内容</p> <p>自分を中心に置いた生活を人類史的な牧畜文化、農耕文化の誕生につなげ、人間の根源的な営みを身体の深いところで掘み取りました。そこに地域の教育資源である里山の循環型の暮らしを結び付け、未来に向けて再構築しなくてはならない循環型社会の基本となるイメージにも触れました。また、家づくり、米づくりなど、9歳から10歳にかけて内面の自立の入り口に立つ子どもたちが、その未熟で不安定な内面を支えるための安心感を得ることができる課題を選ぶことで、しっかりと世界に対峙できるようサポートしました。</p> <p>具体的な実施内容については、ほぼ申請書通りに進めることができました。これらの活動は、すべてお話、詩、歌と結び付けて、活動内容を豊かなイメージと情感を伴った体験へと高めていきました。</p> <p>たとえば、家づくりを始める際に行った地鎮祭では、以下のような詩をクラス担任がつくり皆で唱えました。</p>	

## 家造りの詩

ここに家が建ちます

地と水と火と風の神が  
この家を守ってくれますように  
東と西と南と北の神が  
この家を祝福してくれますように  
太陽と月と星の光が  
この家を照らしますように

そして、この家を訪れるすべての人が  
幸せになりますように

以後、家づくりのエポックが終了するまで、子どもたちは毎日この詩を唱えて作業に勤しみました。子どもたちは竣工した家を「青空ハウス」と名付け、他のクラスの生徒や教職員を招待しました。また、材料の竹を里山から切り出す指導をしてくださった新治市民の森愛護会の皆さんも出来上がったばかりの家に招待し、食事をしていただきました。

職人の仕事の学びとして来ていただいた江戸指物職人の方からは、手を使って生み出す技の魅力や大切さについても語っていただき、ヒノキの八角箸づくりでは、職人さんのアドバイスをもらいながら子どもたちはどんどん腕を上げ、それぞれが実際に使えるきれいな箸を作り上げました。

■成果①児童生徒にとって、具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力を身につけたか。

このプロジェクトでは、昔の人々の生活では顕著だった「自分の手で自然に働きかけ、そこから富（収穫）や安全（家）を得る」ことを体験の中心に据えています。人間の意志や意欲が仕事を左右する領域ですが、1年生から継続してノートづくりや手仕事をたくさん体験してきた子どもたちは、溢れんばかりの意欲で作業に取り組みました。仕事がなくなった子どもたちに先生が「何か仕事を探してごらん」と言うと、自分たちでゴミ拾いや掃除、竹の節取りなどに励みました。

また、家づくりでは道具を大切にすることも学びました。「腕のいい職人は道具を大事にする」を合言葉に、使い終わったのこぎりや鉋などの道具には必ずカバーをかけて、道具置き場に集めておくこと、現場はきれいに片づけること、安全を第一に作業することを心掛けました。

また生活の営みに結びついた儀式や祝い事によって、目には見えないものをつながること、それら目には見えない力によって守られることに感謝すること、来訪者の安全と幸いに

祈りを託すことの大切さを、子どもたちは自然に感じ取りました。

こうした体験は先生のお話とノートづくりを通してひとつの物語に紡がれ、子どもたちの「生きる力」の土台となったという手ごたえを受け取りました。この授業は、次年度の郷土学の学びに受け継がれて、より大きな世界の学びへと広がっていきます。

■成果②教師や保護者、地域、関係機関等に対するインパクト（例えば、発表会を通じて、保護者への啓発にもつながった等）

家づくりを見守ってくださった新治市民の森愛護会の方たちは、子どもたちが生き生きと働く様子、どんどん湧いてくる意欲が印象的だったとおっしゃってくださいました。校庭のクルミの木に鈴なりに登って遊ぶ子どもたちを眺めて、愛護会の方々は顔をほころばせていました。短絡的に結果だけを追わず、ひとつひとつの工程を丁寧につくっていく学びが、いかに子どもたちにとって大切なものであるかを、地域で教育資源を提供してくださっている方々と共有できたのは大きな成果でした。

■自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

とにかくよく準備し、手間を惜しまないことです。授業が散文的にならないよう、プロセス重視で、課題と課題の行間を埋めるストーリー、音楽、詩、アクティビティ、そしてお楽しみ等々を用いて、プロジェクト全体を芸術作品に編み上げました。

二階建ての家の設計では、プロの建築家の意見も聞いて、子どもたちが二階に上がっても十分な強度が出るようにご指導いただきました。

■今後の改善に向けた方策や展望

このよき教育文化を継承し、深めていくこと。より大きな校地校舎に移るためのあらゆる努力を重ね、校庭にたくさんの素敵な家が並ぶ夢を実現させたいです。